

三川町の稲作農業の今



三川町の基幹産業は農業。その中心はやはり「稲作」です。今回は三川町の稲作農業の現状と特色、役割について特集します。

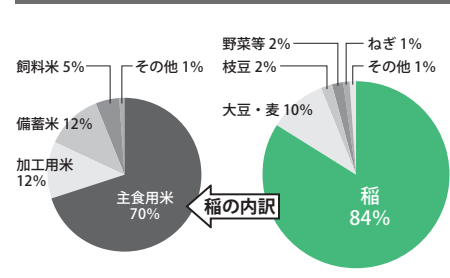
稲作を取り巻く現状

三川町の町の面積33・22km²(3,322ha)のうち、約3分の2にあたる2,113haが「田」となっています。その「田」の今年の作付け状況をみると、「稲」が大部分を占めていることがわかります。【グラフ1参照】

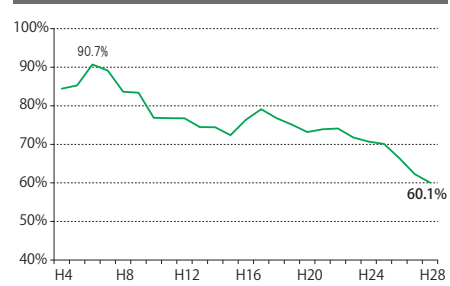
しかし、国内の米の消費量が年々約8万トン減少しているなかで、米の需給バランスの均衡を図るため、主食用米の生産量の抑制(需給調整)を国をあげて行っています。そのため、町の主食用米の作付け面積は年々減少しています。【グラフ2参照】

これらに加え、農家の高齢化や後継者不足、米価の下落など全国的な課題が山積しており、稲作農業を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

【グラフ1】町の「田」における平成28年産の作付け状況

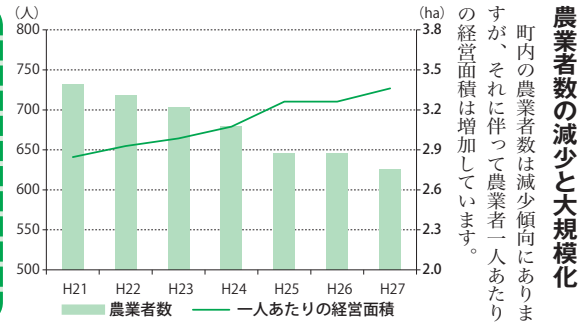


【グラフ2】町の主食用米の作付け面積割合の推移



農業ワンポイント

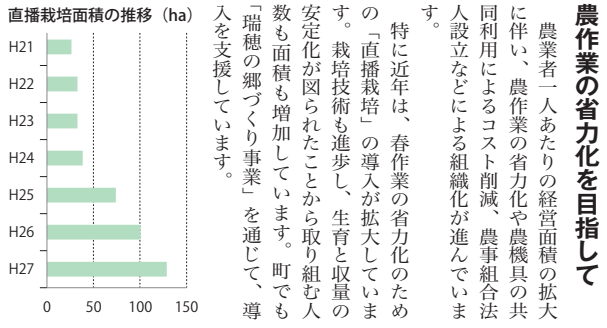
離農などにより農地を手放す際は、農業委員会にご相談ください。農地中間管理事業により、離農の給付金がもらえる場合があります。



農業者数の減少と大規模化
町内の農業者数は減少傾向にありますが、それに伴って農業者一人あたりの経営面積は増加しています。



直播栽培の様子
直播栽培とは、苗を育て植えるのではなく、種を田んぼに直接播く栽培方法



農作業の省力化を目指して
農業者一人あたりの経営面積の拡大に伴い、農作業の省力化や農機具の共同利用によるコスト削減、農事組合法人設立などによる組織化が進んでいます。

特に近年は、春作業の省力化のための「直播栽培」の導入が拡大しています。栽培技術も進歩し、生育と収量の安定化が図られたことから取り組む人も面積も増加しています。町でも「瑞穂の郷づくり事業」を通じて、導入を支援しています。



有機栽培の一つ合鴨農法による雑草管理

環境に優しい米づくり
三川町の米づくりの特徴は、農業や化成肥料を一切使わない「有機栽培」や、農業を減らした栽培方法である「特別栽培」への取り組み面積が大きくなっています。
特に有機栽培については、取組み面積の割合が全国有数です。昨年度は町内の有機農業の方が参画する「庄内産直ネットワーク」が農林水産大臣賞を受賞しました。これは、高品質な有機米の生産のほか、後継者の就農、消費者との交流による地域の活性化、販賣されたものです。

全国に三川ブランドを

地元だけではなく、全国を相手に三川産米を販売・PRする動きも活発になっていきます。庄内たがわ農協の取組みで横浜市浦島小学校との交流事業を毎年実施しています。また、庄内尊農塾は神奈川県民まつりに出店して三川町の特産品を販売しています。

さらに三川町に寄せられた「ふるさと応援寄附金」の返礼品として、三川町のお米を全国各地に送り届けています。
産地間競争が激化する中において、三川町で作ったおいしいお米を全国に販売展開していくためには、有機・特産米のような付加価値を付けて、ほかの産地と差別化を図ることや、全国にPRすること、消費者とのつながりを持つことなどが求められてきます。



「瑞穂の郷」であり続けるために

農業は地域経済を支え、田園風景を守り、自然災害を緩衝し、都市との交流にもつながっていきます



【特集】三川町の稲作農業の今



稲作農業を受け継ぐ
農業を受け継ぐ若者たちがいます。彼らがどのような志を持ち、どのように楽しんで農業に取り組んでいるのか聞いてみました。



なつみずたんぼを活用した都市住民との交流の様子

この取り組みを行っている対馬地区環境保全協議会は昨年度の「美の里づくりコンクール」で審査会特別賞を受賞しており、これからの農業の1つの方向性が示されたものと思われま



産地訪問「庄内ふれあいの旅」の会では美しい田園風景と生産者に大人気のイベントです。

私たち自然派くらぶ生活協同組合と三川町との関わりは「庄内対馬米左衛門グループ」との産直米の取り組みから始まります。三川産米の魅力は、なんととっても美味しいこと。そして環境保全のために「何かしたい」と思っても簡単には行動できませんが、このお米を食べることで間接的に協力できます。
消費者である組合員は生産者から聞く、「なつみずたんぼ」の取り組みや野鳥の話が大好きです。数多くの生き物から人へつながる命の循環を実感し、豊かな気持ちになれるのです。
この素晴らしい田んぼ、環境保全への取り組みがいつまでも続けられることを組合員一同願っています。

自然派くらぶ生活協同組合ラフォーレル
組合員1万人。1974年に1,000人の主婦で東京西市民生協（自然派くらぶ生協）を設立。1988年から庄内米の取り扱いを開始。取扱商品においても添加物などの使用基準を厳格に定めるなど、こだわりの食材を扱う。現在、大切な「食」を次世代に残す「食がたり・食べつたえ」を推進。

農業は景観や環境を守っている
広大な庄内平野に広がる田園風景。秋にはたわわに実った稲穂の黄金色の風景が広がり、三川町の魅力のひとつとなっています。

農地は営農だけでなく、良好な景観形成や国土の保全、水源や自然環境の保全といった多面的機能を有しており、その恩恵は多くの皆さんが受けています。

農業者の減少から農地の維持が課題となっており、近年は農業者だけでなく地域の住民と連携して農地の維持活動が行われています。「多面的機能支払交付金」を活用し、草刈りや植栽活動などの共同作業に取り組んでいます。

生き物の力を借りて

農業を守る取り組みも

対馬地区では農業に「なつみずたんぼ」という手法を用いて雑草対策を行っています。これは稲作ではありませんが、麦や菜種栽培において夏場の農閑期に農地に水を貯めて、雑草抑制や連作障害対策を図る取り組みです。

また、「なつみずたんぼ」を活用した生物多様性の取組みや、都市住民との交流事業、普及啓発活動を展開しています。

私が所属する青山農場では、約52haの耕作面積で水稲30ha、飼料用米5ha、大豆15ha、他に柿や枝豆、花卉を栽培しています。

農業は大変な面もありますが、私は、消費者とのふれあいを大事にすることが何より重要なのではないかと考えています。

消費者との交流により、ニーズを把握することもできますし、何より自分たちが生産した農産物を「おいしい」と目を輝かせて食べてくれる姿を目にすると、自分たちの商品への自信が深まり、喜びを感じます。

これからも農業所得の向上のために、良いものを生産し、営業努力を惜しまず、全国に自社の商品を出荷するために米の直販の割合を増やしていきたいと考えています。

将来的には高級車を乗り回せるような農業経営ができれば最高です（笑）



農事組合法人青山農場
代表理事 五十嵐 晃樹さん

おわりに

三川町の基幹産業は農業です。地域経済の一翼を担う一方、自然環境の保全など多面的機能を有しています。三川町の魅力を継承していく稲作農業は、瑞穂の郷づくりにつながっていきます。

問合せ先 役場産業振興課農政係

☎ 35 | 7017